

平成30年度文部科学省
職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進
成果報告

FD・SD事業

職業実践専門課程の質保証・向上につながる専修学校教職員
資質能力向上プログラム開発

コンピテンシー事業

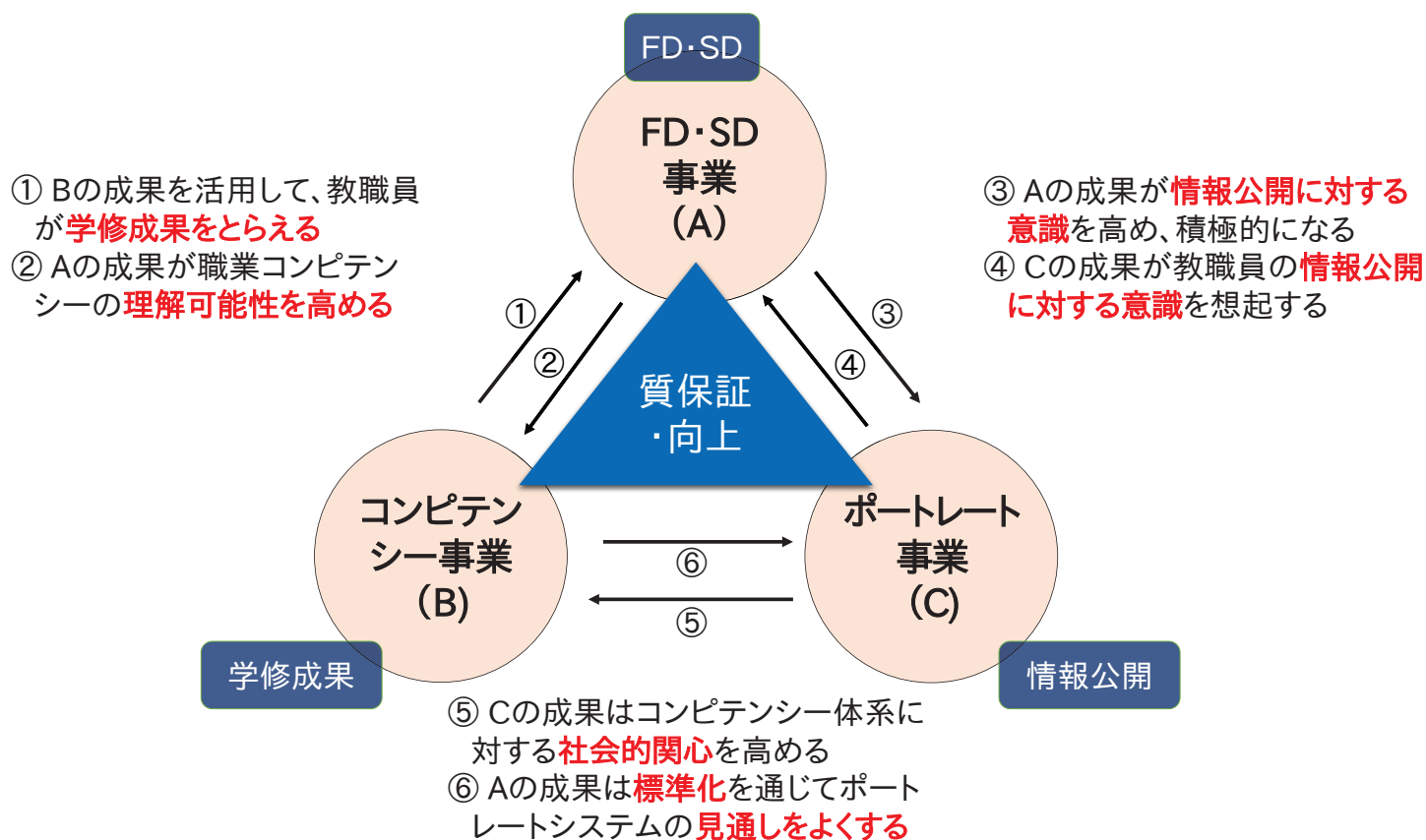
学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

ポートレート事業

職業実践専門課程に相応しいポートレートシステムの要件定義

一般社団法人専門職高等教育質保証機構（QAPHE） 2019年2月22日

1



2

FD・SD カリキュラム体系

ID	項目	ID	科目	講師	区分		コマ										備考
					FD	SD	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
A	学校理念	A1	プロフェッショナルディベロップメント	三輪建二、大野精一	◎	△	●	●									
		A2	三つのポリシー	—	◎	◎											H31開発
B	学校・学級運営	B1	カリキュラムデザイン	山田雅之	◎	△	●	●	●								
		B2	カウンセリング能力	大野精一	◎	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		B3	ファシリテーション	三田地真実	◎	○	●	●	●								
		B4	発達障害	岩澤一美	◎	○	●	●	●								
		B5	学習指導能力	三輪建二	◎	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		B6	学級運営	大隅心平	◎	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		B7	IT活用教育実践	斎藤俊則	◎	△	●	●	●								
		B8	専修学校設置基準の知識、(分野ごと)関係法令の知識	—	△	◎											H31開発
C	職業実践専門課程	C1	教育課程編成委員会・学校関係者評価の運用	江島夏実	△	◎	●	●									
		C2	説明責任と情報公開	江島夏実	○	◎	●	●									
D	内部質保証	D1	専門学校経営におけるガバナンスとマネジメント	—	△	◎											H31開発
		D2	質保証の実務	川口昭彦、江島夏実	○	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		D3	授業改善の実務	—	◎	○											H31開発
E	学修成果	E1	キャリアディベロップメント	—	◎	○											H31開発
		E2	キャリアフレームワークに関する知識	江島夏実	◎	○	●	●									
F	研修方法論			—	◎	◎											H31開発

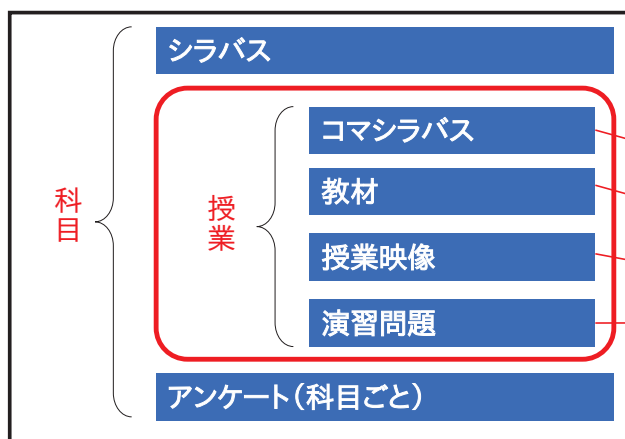
3

FD・SD 実証講座

<http://fdsd.qaphe.com/>

コース(実証講座全体)

コース受講者へのお知らせ



アンケート(全体)

第1回 カリキュラムデザインに関わる理論的背景

講師：山田 雅之

「第1回 カリキュラムデザインに関わる理論的背景」 コマシラバスダウンロード

296.7KB PDF ドキュメント

「第1回 カリキュラムデザインに関わる理論的背景」 教材ダウンロード

1.3MB PDF ドキュメント

「第1回 カリキュラムデザインに関わる理論的背景」 講義映像

「第1回 カリキュラムデザインに関わる理論的背景」 演習問題

第2回 学びの理論と事例

講師：山田 雅之

「第2回 学びの理論と事例」 コマシラバスダウンロード

275.5KB PDF ドキュメント

「第2回 学びの理論と事例」 教材ダウンロード

1.1MB PDF ドキュメント

「第2回 学びの理論と事例」 講義映像

「第2回 学びの理論と事例」 演習問題

第3回 学びの評価と今後の展望

講師：山田 雅之

1回の授業

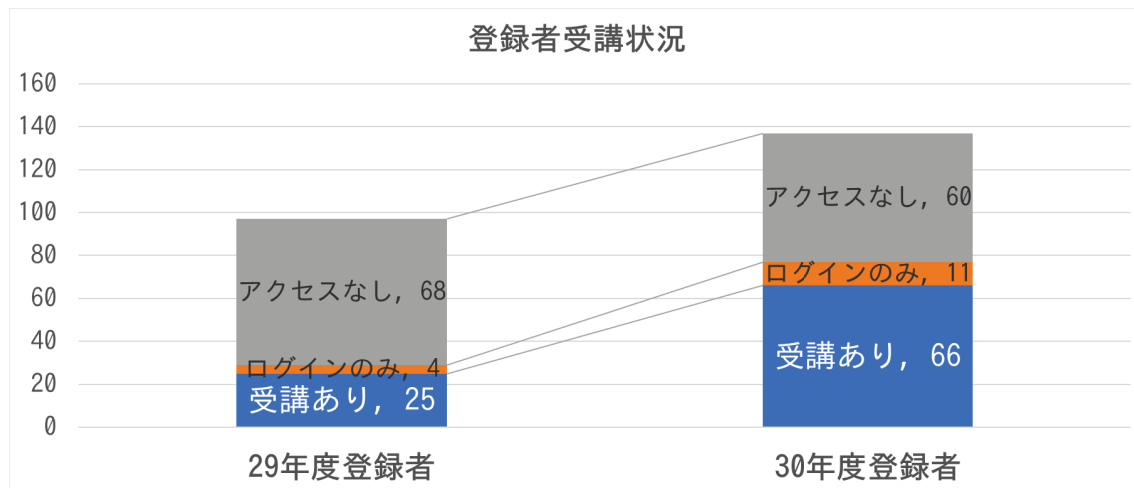
4

- 実施協力校
- 継続受講者(29年度登録者)
- 新規受講者(30年度登録者)

H30.8.29開講

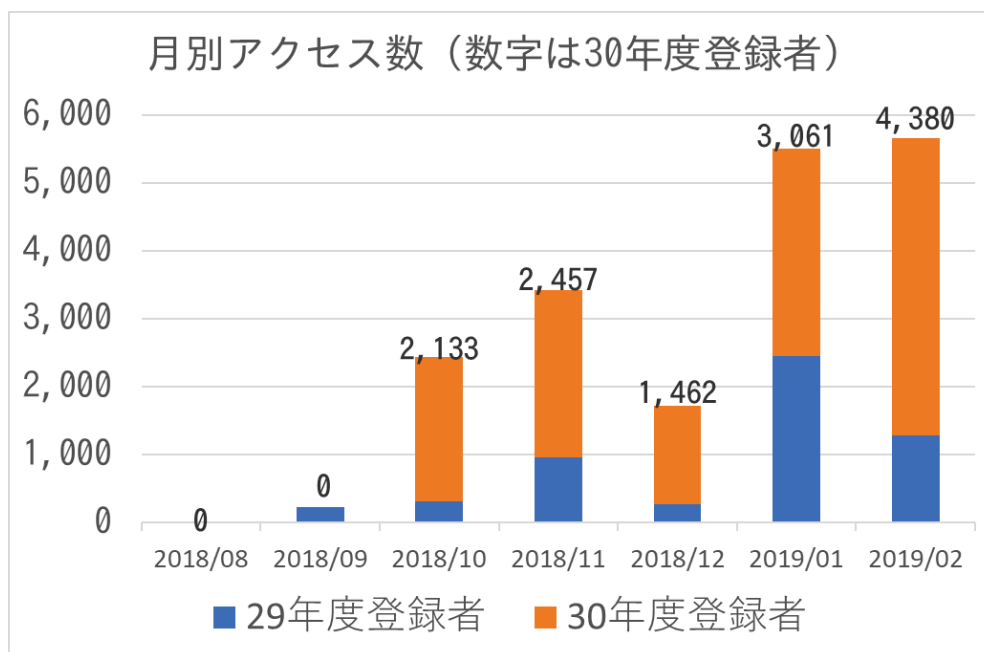
H30.8.29開講 → H31.3.8閉講予定

H30.10.15開講 → H31.3.8閉講予定



H31.2.15現在 29年度97名、30年度137名、合計244名が登録 → **91名が受講**

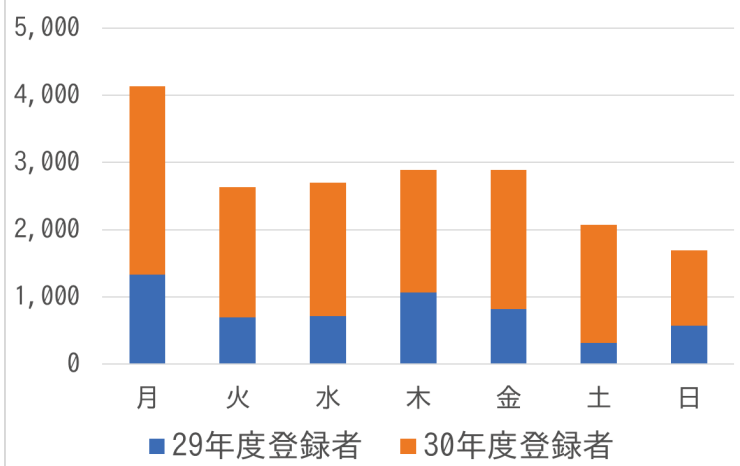
5



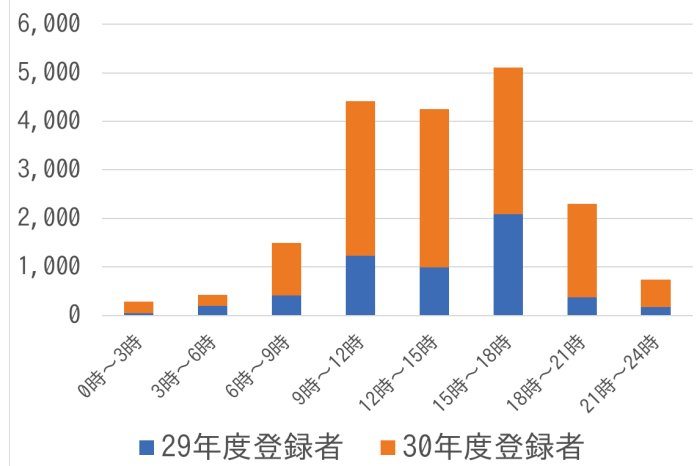
- 閉講が近づくにつれてアクセス数は増加
- 12月はやはり忙しかったか

6

曜日別アクセス数



時間帯別アクセス数



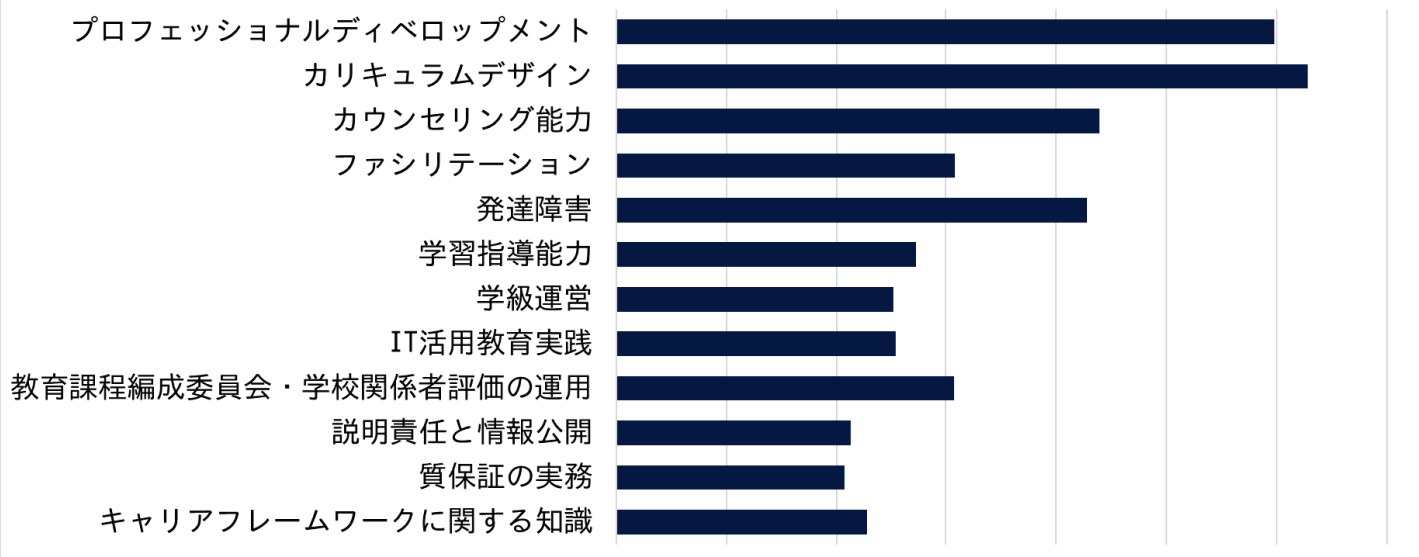
● 月曜日が最多。土日も少なくない

● 放課後が最多も、授業の合間も受講
● 深夜・早朝のアクセスもある

7

授業1回あたり講義映像視聴数

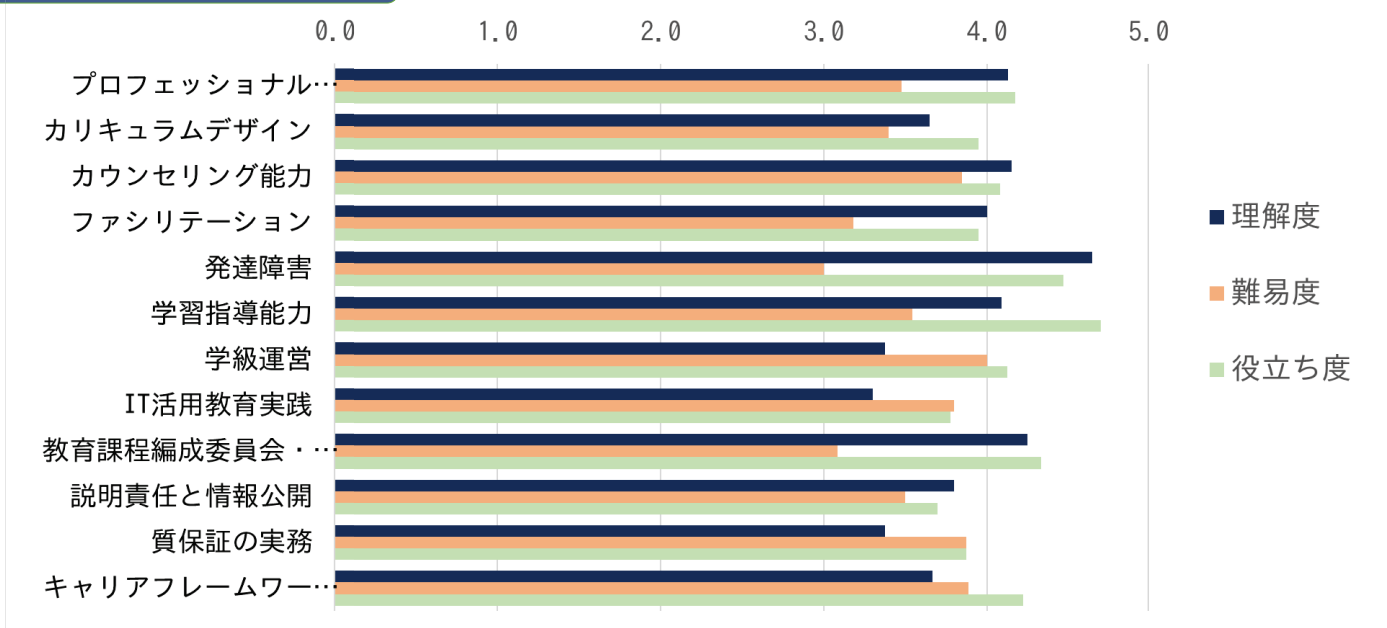
0 20 40 60 80 100 120 140



● 最初のほうの科目が視聴数多い
● 身近に感じる科目ほど視聴数が多い

8

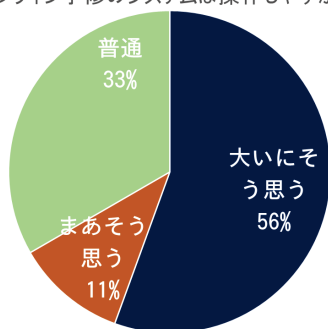
科目ごとの評価（アンケートから）



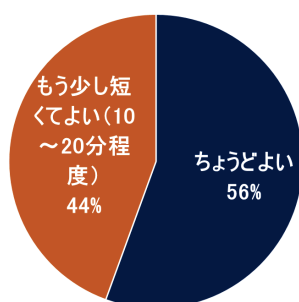
- 難易度が低い科目は理解度が高い。身近に感じる科目ほど理解度が高い
- 全般に理解度、役立ち度は高いといえる

全体アンケートから（主として外形的なこと）

オンライン学修のシステムは操作しやすかった



動画時間の目安(30～40分)をどう思うか



- 記述式が多くありましたが、演習で求める回答のボリュームに差がありすぎです。
- 再生スピードを速める機能(倍速再生)があると忙しい中でも受講できると思います。
- 若干音声聞き取りづらい講座(教室の中で音がこもっているような?)がありました。
- 案内メールが10月頃だと記憶しているが、そうすると約半年ほどしか受講期間がないので、もう少し余裕を持って受講できるようにしてほしい。
- 未受講の講座のみを表示するようなフィルタリングの機能があると残りが視覚的に把握しやすくなり、計画が立てやすくなるのではないかと思います。

次年度

- ✓ 全体90コマの完成→履修証明プログラム化
- ✓ 学校の中で研修の計画・実践ができる講師の育成

レベル (水準)	領域		
	知識	技能	責任と自律性
8			
7			
6			
5			
4			
3			
2			
1			

学習の達成水準

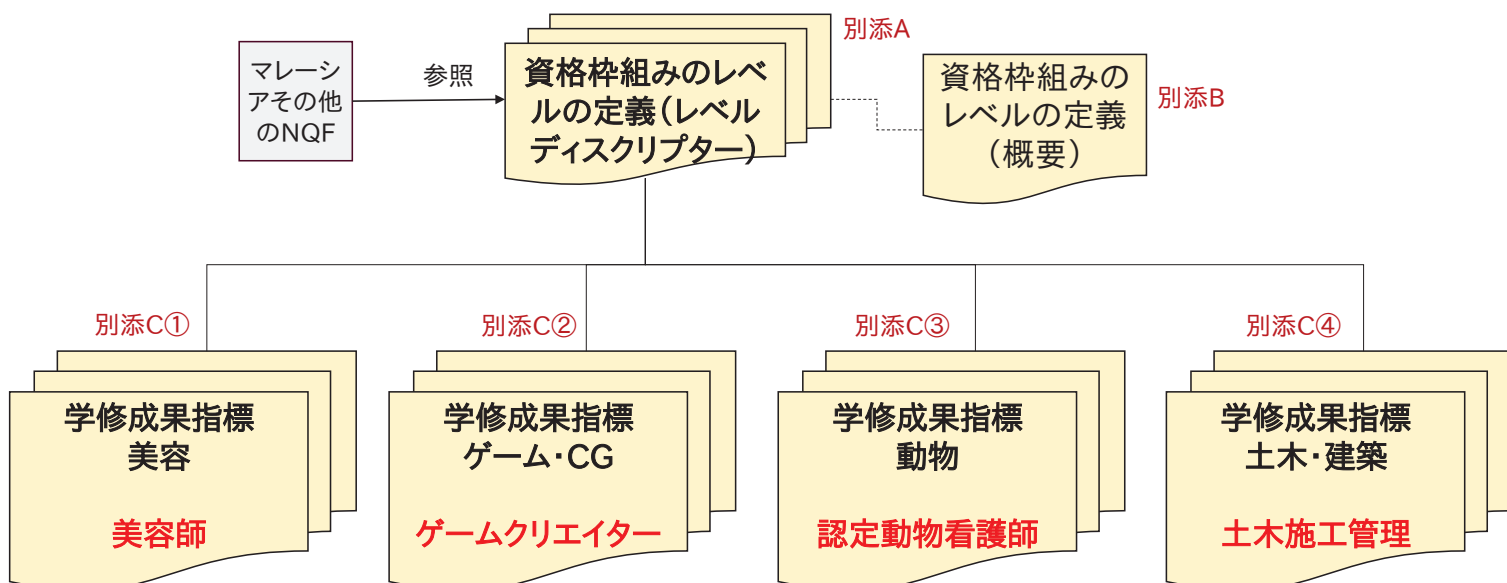
学習量・学修成果・能力等

コンピテンシー
(コンピテンス)
と呼ばれる

- 単なる知識や技能だけでなく、様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求(課題)に対応することができる力 (NIAD-QE 用語集より)。

諸外国では国家が策定
国家資格枠組み NQF
(National Qualifications Framework)

- ✓ 学位・資格制度の整理・可視化
- ✓ 学修成果に基づく資格の透明性の向上
- ✓ 学修成果の策定や水準に関する雇用者の関与
- ✓ 教育訓練と労働市場との関係性の強化
- ✓ 学修者のセクター間の移動、入学、編入の支援
- ✓ リカレント教育(生涯教育、継続教育)の促進
- ✓ 質の向上をめざした質保証システムの一環
- ✓ 職業教育訓練の地位の向上 (野田委員資料より)



- トップダウンアプローチで進める
- 資格枠組みのレベルの定義 → 4つの分野の分科会で議論 → 学修成果指標の作成

コンピテンシー

● 4つの分野ごとに、企業にアンケート

✓ 別添A、B

資格枠組みのレベルの定義について

- ・職業訓練プログラムの標準化を促進するか。
- ・学修者の目標になるか。
- ・レベルの目安は合っているか。
- ・領域の区分をどう思うか。

✓ 別添C

学修成果指標について

- ・各レベルのディスクリプターが合っているか。
- ・領域の区分をどう思うか。
- ・自由意見。

調査

✓ レベル判定

専門学校卒業生について、学修成果指標に基づいて、入社時、現在、5年後のレベル判定

レベル判定シート

(土木・建築の例)

条件 卒業後15～20年程度 氏名 現在の役職
性別 1男 2女 → ☐ 西暦 年入社 年齢 → 歳(2018年12月31日現在)

レベル判定

L.	入社時	現在	5年後	学修者プロフィール(注)
8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・博士(工学)・技術士(総合技術監理部門) ・特別上級土木技術者
7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・技術士(各部門)・上級土木技術者・環境計量士 ・コンクリート診断士
6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・1級土木施工監理技士
5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・実務経験5年(1年以上の指導監督の実務経験含む)
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・2級土木施工管理技士
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・専門学校在学

取得資格(3つまで記入)

コメント

(注) 資格名は、目安として、当該レベルに十分達成していると判断できる取得資格です。

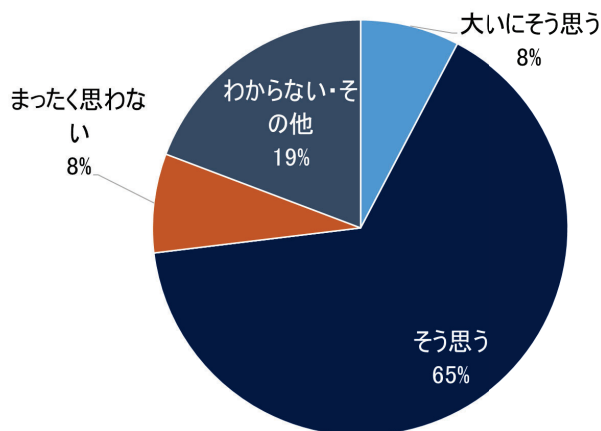
- 土木・建築 86社送付 → 26社回収、レベル判定対象専門学校卒業生58名
- 動物 185人送付 → 87人回収(全員がレベル判定対象) ※動物分野のみ自己評価

13

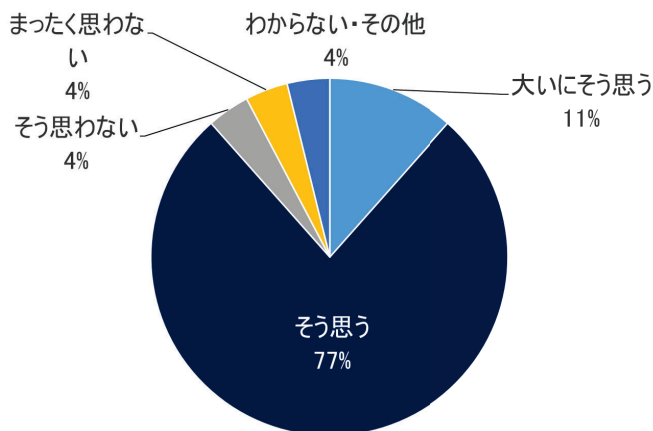
コンピテンシー

調査結果(土木施工管理)

2-1 「資格枠組み」が人材レベルの底上げや人材の国際間・業種間の移動可能性を高めるか



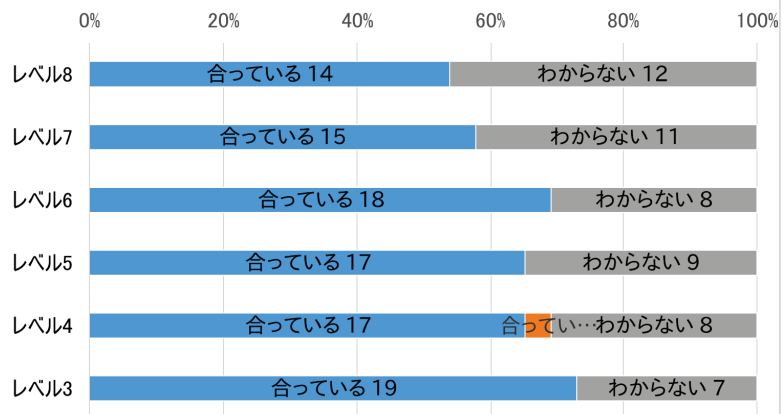
2-2 別添Aや別添Bは専門学校生が学修を進めるための目標・指針として機能すると思うか



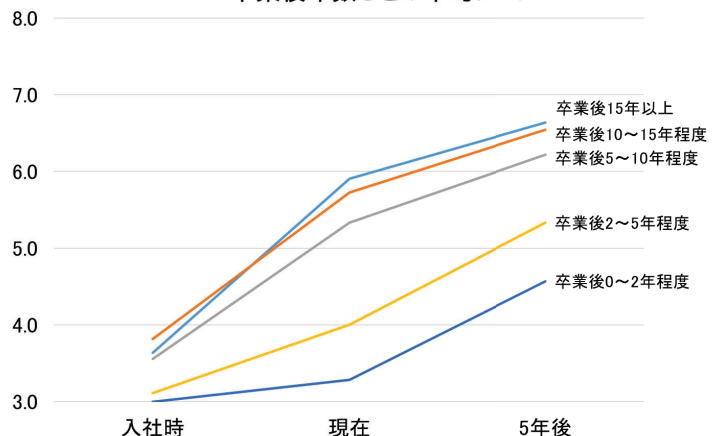
- 基本的に肯定的
- 2-2ははっきりその傾向あり → 学修目標としての機能に期待感

14

3-1 各レベルの定義(黒字部分)と赤字部分の記述が各レベルと「合っている」か

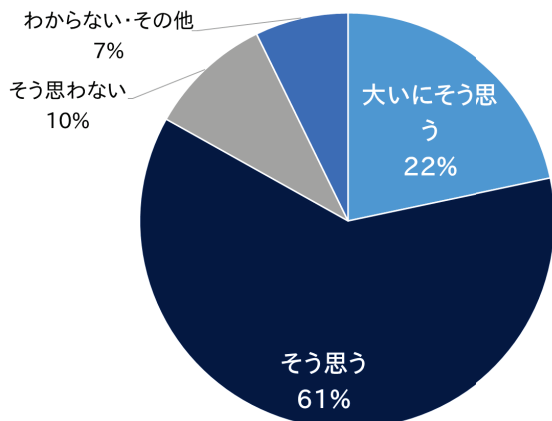


卒業後年数ごとの平均レベル

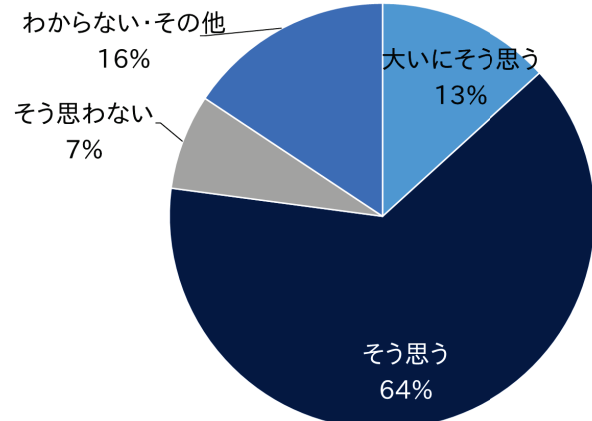


- レベルが下に行くほど「合っている」と思われているが、「わからない」も多い
- なかなか厳しい評価。卒業後5年でもレベルは4のまま。10年まで行けばレベル5～6であるが、ベテランほど頭打ち？

2-1 「資格枠組み」が人材レベルの底上げや人材の国際間・業種間の移動可能性を高めるか

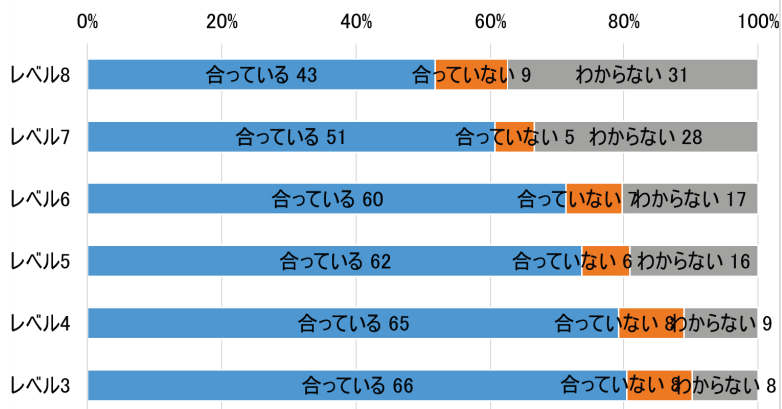


2-2 別添Aや別添Bは専門学校生が学修を進めるための目標・指針として機能すると思うか

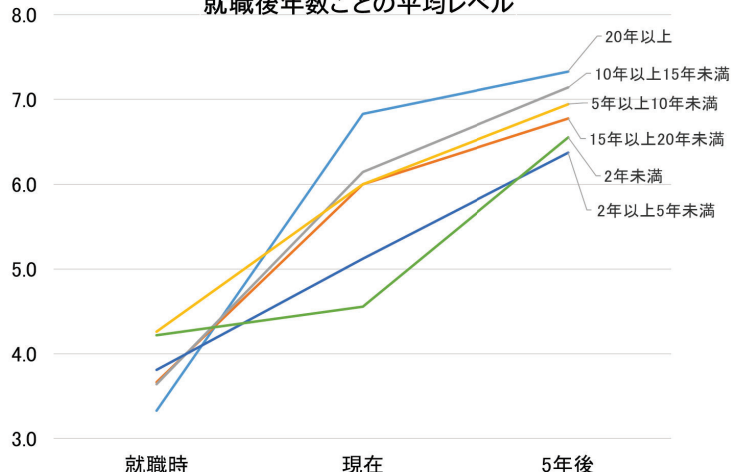


- 土木施工管理職種より肯定的
- 肯定的ではあるが、「そう思わない」「わからない」も多い

3-1 各レベルの定義(黒字部分)と赤字部分の記述が各レベルと「合っている」か



就職後年数ごとの平均レベル



- レベルが下に行くほど「合っている」と思われているが、「わからない」も多い。「合っていない」と断じる例も少なくない

- 土木施工管理に比べて明らかに甘い評価。自己評価だから？ ただし、就職時から現在までの傾きはリーズナブルな感じ。

17

〇〇職種の学修成果指標

レベル (水準)	領域		
	知識	技能	責任と自律性
8			
7			
6			
5			
4			
3			
2			
1			

- レベルごとに、学修成果をあげるために必要な学修ユニットを体系化
- そのユニットを構成するコンピテンシーとその評価要件を体系化

〇〇職種・レベル3の学修ユニット

Unit ID	学修ユニット(科目)	目的・概要	学習方法・時間数
1	〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇
2	〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇
...	〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇

学修科目の中で養成する能力(コンピテンシー)とその評価要件の一覧

〇〇職種・レベルX・ID 2のコンピテンシー

Comp ID	コンピテンシー	Req. ID	評価要件
1	〇〇〇〇	1. 1	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
		1. 2	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
		1. 3	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
...	〇〇〇〇	...	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
		...	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇職種・レベルXとして認定するために必要な学修科目の一覧

- ・レベル4:2年課程の科目一覧に相当
- ・レベル5:3年課程の3年次科目一覧に相当 または
2年課程卒1年目教育カリキュラムに相当
- ・レベル6:4年課程の4年次科目一覧に相当 または
2年課程卒2年目(3年課程卒1年目)の教育カリキュラムに相当

18

- 一般公開版を作成中。qaphe.comからリンク

コンピテンシーポータル

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール アドオン ヘルプ 最終編集: 12日前 (大住慈仁子さん)

100% 123 Arial 12

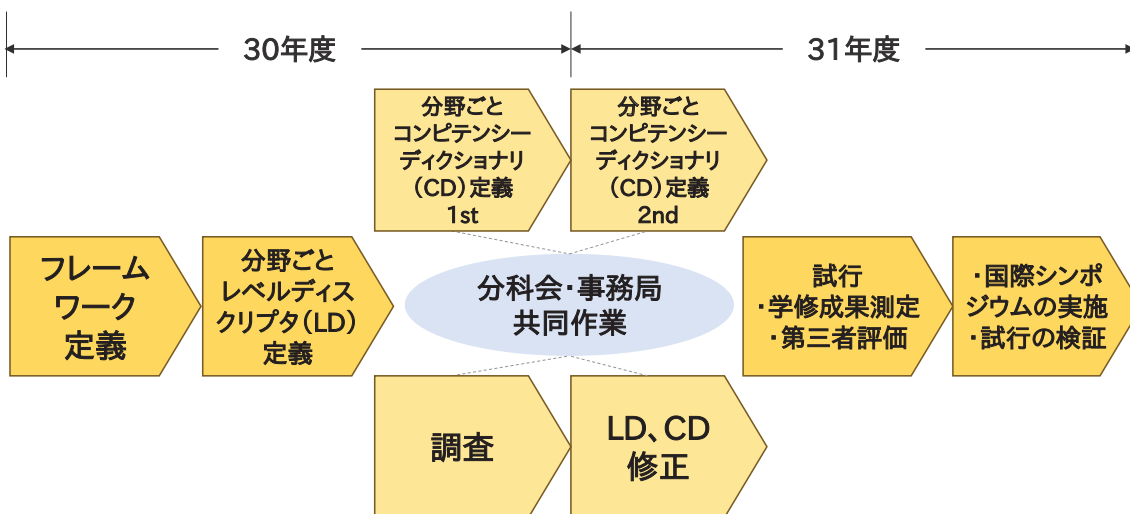
A 資格枠組みのレベルの定義 (レベルディスクリプター)

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	汎用的な技能	専門実践技能	対人技能 (注1)	分析技能 (注2)	管理・指導技能	自律性と責任感	倫理観とプロ意識
1	学習者は、学習分野や専門分野の基礎知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	学習分野や専門分野の基礎知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。
2	学習者は、学習分野や専門分野の基礎知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	学習分野や専門分野の基礎知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。
3	学習者は、学習分野や専門分野の基礎知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	学習分野や専門分野の基礎知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。	基礎的な知識・技能を習得し、実践的な知識・技能を身につける。

10

3

19



- 4分野について完成を目指すとともに、他の分野でも同じ方法で作成するところが現れることを期待

① そのままの問題意識

職業実践専門課程の基本情報の様式

- ・検索困難性
- ・データの不整合の可能性

※大学でも同様の問題はあったが、
大学ポートレートで改善へ取り組み

② 職業実践専門課程に関する情報公開への期待

- ・これからの専修学校教育の振興のあり方について(報告)
- ・2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申) など

※情報の提供・公開に対するより一層の
期待感、および、その信頼性向上への
期待感

③ NICへの対応の必要性

(National Information Center)

- ・外国資格認証(FCE、Foreign Credential Evaluation)」に係る情報システムの役割がクローズアップ
- ・その発端は「東京規約」の発効
2017年12月に日本と韓国が批准したこと
で発効
「アジア・太平洋地域における地域条約」
→いずれはユネスコのもとで世界統一
- ・東京規約の第8章
国内情報センター(NIC)が持つべき
要件定義書に相当

※次スライドに概要説明図

平成29年12月6日締結
平成30年 2月1日発効

背景

- 1983年:ユネスコの下で前身の規約を採択。職業資格を含む等の問題点があったため、2007年以降、我が国が主導して新たな規約案を審議。
- 2011年11月:ユネスコの下、東京において本規約を採択。

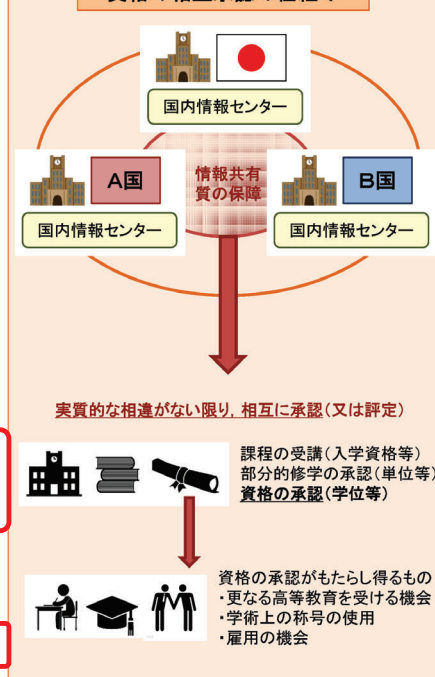
目的

- 締約国間で高等教育の資格の相互承認等を行うことにより、学生及び学者の移動を容易にし、アジア太平洋地域における高等教育の質を改善する。

主な内容

- ◆ 締約国は、資格の評定・承認の手段及び基準が公正かつ差別的でないものであることを確保する。(第3章)
- ◆ 締約国は、資格の内容に実質的な相違がない限り、下記①～③について、他の締約国が付与した高等教育の資格(含:オンライン学習等による資格)を承認又は評定する。
 - ①高等教育課程を受講するための要件(入学資格等)(第4章)
 - ②部分的な修学(単位等)(第5章)
 - ③高等教育の資格(学位等)(第6章)
- ◆ 各国は国内情報センターを設立し、情報を交換する。(第8章)

資格の相互承認の仕組み





- 前提: **一元化**しなければ意味がないのでデータベースシステムの導入は必須
- 職業実践専門課程の基本情報の要件は、そのまま**機能・入力・出力要件**

職業実践専門課程の基本情報の各項目に入力する情報について詳細な記述がある。

↓
要件定義の一つ

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦等の手続について(依頼)

【別紙様式1-1について】

1. 「学校名」、「分野」、「認定課程名」、「認定学科名」の欄について。

○ 原則として、これらについては、学則に記載されている名称で告示します。認可若しくは受理された最新の学則に記載されている学校名・課程名・学科名を、正確に記入してください。省略はせず、そのまま記入してください。

○ 「分野」欄には、「工業」「農業」「医療」「衛生」「教育・社会福祉」「商業実務」「服飾・家政」「文化・教養」の区分を選択してください。

○ なお、推薦時点までに推薦を行う学科に関する学則変更を都道府県知事等が認可若しくは受理していない場合は、推薦の対象となりません。

○ 特に、以下の点には十分ご注意ください。

- ・「〇〇科」なのか「〇〇学科」なのか
(⇒「学」があるかないか)
- ・「文化・教養専門課程」なのか「文化教養専門課程」なのか
(⇒「・」があるかないか)
- ・全角半角の違い、スペースの有無。

2. 「学科の目的」の欄について。

○ 推薦される学科(以下「推薦学科」という。)が、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的としていることが分かるように、学科の目的を具体的に記入してください。

3. 複数の課程・学科を推薦する場合について。

○ それぞれの学科毎に別紙様式1-1から別紙様式4及び添付資料を提出してください。

(文部科学省発信文書から)

<http://portraits.qaphe.com/>

QAPHE 一般社団法人 専門職高等教育質保証機構

職業実践専門課程ポートレート設置者一覧

画面ID : 10.50
設置者情報に対する処理を選択してください。

検索条件: 設置者コード: 設置者名:

設置者コード	設置者名	設立認可年月日	設置者	設置者年度	学校
1260005001784	学校法人三友学園	1986年07月26日	変更	削除	登録
3260005001774	学校法人朝日医療学園	1991年03月25日	変更	削除	登録
4070005002758	学校法人MGL学園	2003年03月31日	変更	削除	登録
4280005000410	学校法人山陰理容美容学園	1957年10月07日	変更	削除	登録
4470005002387	学校法人大塚学園	2004年12月12日	変更	削除	登録
5010001016790	QAPHE学園	2011年02月23日	変更	削除	登録
5030005006968	学校法人中央情報学園	1987年01月30日	変更	削除	登録
5120005004665	学校法人修成学園	1976年04月01日	変更	削除	登録
5120005004764	学校法人山口学園	1983年11月22日	変更	削除	登録
5150005000703	一般社団法人奈良県歯科医師会	1947年11月10日	変更	削除	登録
7010405001676	学校法人メイ・ウシヤマ学園	1984年03月16日	変更	削除	登録
8120005004803	学校法人大阪滋養学園	1987年04月01日	変更	削除	登録
9120005004653	学校法人古武学園	1977年01月11日	変更	削除	登録
9180005002123	学校法人愛知理容学園	1949年06月11日	変更	削除	登録

設置者コード: 5120005004764 設置者名: 学校法人山口学園

学校コード	学校名	設立認可年月日	学校	学校年度	学科	学科基本情報	学科企業連携	学科科目
01	ECCコンピュータ専門学校	1997年03月28日	変更	削除	登録	一覧	登録	一覧
02	ECC国際外語専門学校	1984年02月20日	変更	削除	登録	一覧	登録	一覧
03	ECCアーティスト美容専門学校	2003年03月28日	変更	削除	登録	一覧	登録	一覧

設置者コード : 5120005004764
設置者名 : 学校法人山口学園
学校コード : 01
学校名 : ECCコンピュータ専門学校

学科コード	学科名	学科	学科履修年度	学科実修年度	学科資格年度	学科評価年度
01	高度情報処理研究科ゲーム開発エキスパートコース ゲームCG専攻	変更 削除	登録 一覧	登録 一覧	登録 一覧	登録 一覧

学校一覧に戻る

職業実践専門課程の基本情報を編集できる

- 複数年度の情報を管理する仕様
- 次の項目は登録管理可能な仕様
 - ✓ 資格[学修成果のところ] 様式4(1)
 - ✓ 教育課程編成委員会委員 様式4(2)
 - ✓ 学校関係者評価委員 様式4(2)
 - ✓ 科目 様式4(3)

25

設置者検索条件設定

職業実践専門課程ポートレート設置者検索結果一覧

①大阪府の設置者 2017年度を検索

②山口学園を選ぶ

③ECCコンピュータ専門学校を選ぶ

④高度情報…専攻を選ぶ

⑤タブを切り替えて必要な情報を得る

基本情報 生徒・教員 学修成果 第三者評価 教育課程編成 企業連携授業 教員研修

学校関係者評価 学校情報提供 授業科目

ECCコンピュータ専門学校 高度情報処理研究科ゲーム開発エキスパートコース ゲームCG専攻

学校名: ECCコンピュータ専門学校
学科名: 高度情報処理研究科ゲーム開発エキスパートコース
分野: 工業
認定課程名: 工業専門課程
認定年月日: 2014年03月31日
専門士: -
高度専門士: 平成22年文科省告示第156号
学科の目的: IT及びゲーム業界で必要とされるソフトウェア開発技術、知識及びチーム制作の実践教育を通じて高度な技術力・柔軟な思考力・豊かな人間性を有し、創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた企業及び社会が必要とする人材を育成

26

● 学校側

区分	項目	肯定的	否定的	その他
必要性・存在意義		利用者の立場では必要	今の仕組み工夫する方法あり	他校との比較
機能性・操作性	複数年度	必要(ただし、期間限定)	最新のみでよい	ルールに従う
	入力簡素化・データ整合性	資格	便利	その都度でよい
		科目	便利	
		編成委員	便利	1年単位の更新なので不要
		評価委員	便利	1年単位の更新なので不要
	コピー	便利		やるならまとめて全部コピー
	使い勝手	慣れればよい	どこにいるのかわからない	研修など必要では
非機能要件	権限	必要		すべてシステム管理者が行うべき
	セキュリティ	大切		
	パフォーマンス	今のレベル以下にならない		全校なら3,000課程があって、時期が集中することを考慮すべき
自由		きちんとやっている学校がきちんと評価されるために絶対必要		

27

● 利用者側

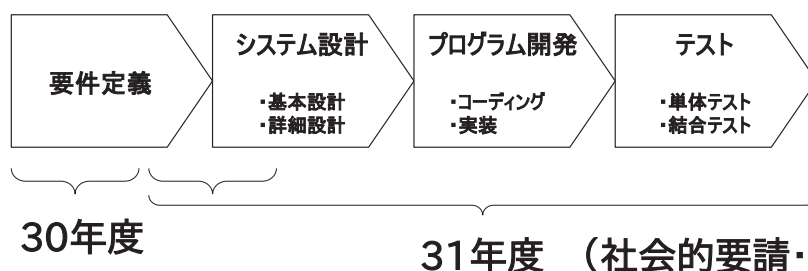
(検索機能の操作性)

- ・ 使い勝手よい。検索結果画面に**タブ**があって見やすい。
フリーワード検索などできるとよい。
- ・ **複数年度は期限**を設けざるを得ないのではないか

(存在意義その他)

- ・ 行政システムとの連動…職業実践専門課程**認定要件**、無償化**機関要件**の**判定**など
- ・ 質保証にかなうなど、**特定の学校のみが参加**できる仕組みとしても考えられる
※NICとの関係性を考えると、高等教育機関全参加型でないと難しいか？
- ・ **システム運用**をどうするのか？

● 今後



28